

## 8.8 動物



## 8.8 動物【簡略化項目】

### 8.8.1 現況調査

#### (1) 調査内容

調査の内容は、表8.8-1に示すとおりであり、仙台市宮城野区蒲生に位置し国指定仙台海浜鳥獣保護区である蒲生特別保護地区（以下、「蒲生干潟」という。）における「動物相及び注目すべき種」を把握することとした。

表 8.8-1 調査内容（動物）

項目	調査内容
動物	蒲生干潟における動物相及び注目すべき種

#### (2) 調査方法

##### ① 既存資料調査

既存資料調査における調査方法は、表8.8-2のとおりとした。

表 8.8-2 調査方法（動物：既存資料調査）

調査内容	調査方法
蒲生干潟における動物相及び注目すべき種	蒲生干潟において動物の現地調査結果が報告されている、「グリーン復興プロジェクトしおかぜ自然環境ログ」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）に掲載されている調査結果報告等を収集し、各既存資料に掲載されている出現種を整理した上で、注目すべき種を選定した。また、注目すべき種については、生息環境や種の特性等について把握した。 蒲生干潟では、東日本大震災の影響により環境に変化が生じていた可能性が考えられることから、震災後に蒲生干潟で現地調査が実施された結果が掲載されている資料として、表8.8-3に示す既存資料を調査対象とした。既存資料における調査方法は、表8.8-4のとおりである。 また、注目すべき種の選定基準は、表8.8-5・6のとおりとした。

表 8.8-3 収集した既存資料（動物）

資料番号	収集した既存資料	調査項目					
		哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	昆虫類	底生動物
①	「平成25年度東北地方太平洋沿岸地域植生・湿地変化状況等調査調査報告書」（平成26年、環境省自然環境局生物多様性センター）	○	○	○	○*	○	○
②	「平成26年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査 調査報告書」（平成27年 環境省自然環境局生物多様性センター）	○	○	○	○	○	○
③	「平成27年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査 調査報告書」（平成28年、環境省自然環境局生物多様性センター）	○	○	○	○*	○	○
④	「平成23年度 東日本大震災による自然公園等への影響調査業務報告書 上巻」（平成23年、株式会社ブレック研究所）	○	○				○
⑤	「平成24年度国指定仙台海浜鳥獣保護区鳥類モニタリング調査業務報告書」（平成25年、公益財団法人 日本鳥類保護連盟）		○				
⑥	「平成25年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書」（平成26年、環境省東北地方環境事務所）		○				○
⑦	「平成26年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書」（平成27年、環境省東北地方環境事務所）		○				○
⑧	「平成27年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務＝震災後の鳥類の利用状況等の把握＝報告書」（平成28年、環境省東北地方環境事務所）		○				○
⑨	「平成28年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書」（平成29年、環境省東北地方環境事務所）		○				
⑩	「平成27 年度国指定仙台海浜鳥獣保護区におけるコクガン生息状況調査業務調査報告書」（平成28年、日本野鳥の会 宮城県支部）		○				
⑪	「平成28 年度国指定仙台海浜鳥獣保護区におけるコクガン生息状況調査業務調査報告書」（平成29年 環境省 東北地方環境事務所）		○				
⑫	「モニタリングサイト1000」（ガンカモ類調査）（平成30年11月閲覧、環境省HP）		○				
⑬	「モニタリングサイト1000」（シギ・チドリ類調査）（平成30年11月閲覧、環境省HP）		○				
⑭	「自然豊かな蒲生十湯 継続観察プロジェクト 仙台市科学館蒲生調査レポート」（平成30年11月閲覧、スリーエム仙台市科学館HP）		○	○			○
⑮	「高砂市民センター 仙台・蒲生の自然」（平成30年11月閲覧、仙台市市民センターHP）	○	○			○	○
⑯	「平成24年度 東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査等業務報告書」（平成25年、環境省自然環境局生物多様性センター）						○
⑰	「平成26年度 東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査 調査報告書」（平成27年、環境省自然環境局生物多様性センター）						○
⑱	「平成27年度 東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査 調査報告書」（平成28年、環境省自然環境局生物多様性センター）						○

注：※は、調査項目に含まれているが、出現が確認されなかった項目を示す。

表 8.8-4 既存資料における調査方法（動物）

資料番号	調査方法												
①	<p><b>【動物相調査】</b> 砂浜や海域、非耕作農地、造成地といった面積が大きく連続性を考慮する上で重要な環境を区分し、典型的な箇所において、目視確認による動物相調査を実施した。また、稀少な動植物、特定外来生物などを記録し、写真撮影を行った。</p>												
②	<p>なお、環境区分は、開放水域、砂浜、干潟、河川、湿地、被災樹林、耕作農地、非耕作農地、宅地跡の9区分とした。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>調査内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>哺乳類</td> <td>環境区分毎にフィールドサイン法、任意観察調査を実施した。</td> </tr> <tr> <td>一般鳥類</td> <td>環境区分毎に任意観察調査を実施した。猛禽類を含む。</td> </tr> <tr> <td>両生類・爬虫類</td> <td>環境区分毎に任意観察調査を実施した。</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>陸生昆虫及び水生昆虫について、環境区分毎に任意観察調査を実施した。</td> </tr> <tr> <td>底生動物</td> <td>水域あるいは新たな湿地において、代表的な地点でサンプルを採集し同定した。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	調査内容	哺乳類	環境区分毎にフィールドサイン法、任意観察調査を実施した。	一般鳥類	環境区分毎に任意観察調査を実施した。猛禽類を含む。	両生類・爬虫類	環境区分毎に任意観察調査を実施した。	昆虫類	陸生昆虫及び水生昆虫について、環境区分毎に任意観察調査を実施した。	底生動物	水域あるいは新たな湿地において、代表的な地点でサンプルを採集し同定した。
項目	調査内容												
哺乳類	環境区分毎にフィールドサイン法、任意観察調査を実施した。												
一般鳥類	環境区分毎に任意観察調査を実施した。猛禽類を含む。												
両生類・爬虫類	環境区分毎に任意観察調査を実施した。												
昆虫類	陸生昆虫及び水生昆虫について、環境区分毎に任意観察調査を実施した。												
底生動物	水域あるいは新たな湿地において、代表的な地点でサンプルを採集し同定した。												
③													
④	<p><b>【モニタリング調査（生物相の概要把握）】</b> 移動可能なルートを移動しながら、鳥類相、生物相を調査し、確認された種について記録した。</p>												
⑤	<p><b>【鳥類調査】</b> ラインセンサス法、定点観察法を行った。国指定鳥獣保護区指定理由であるシギ・チドリ類及びガンカモ類の生息地として重要である干潟を重点的に観察した。</p>												
⑥													
⑦	<table border="1"> <thead> <tr> <th>調査方法</th> <th>調査内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ラインセンサス法</td> <td>調査ルートの両側に出現した鳥類の種名、個体数、確認状況、確認された環境、繁殖に係る行動等を記録した。</td> </tr> <tr> <td>定点観察法</td> <td>調査定点から双眼鏡及び直視型望遠鏡を用いて、観察される鳥類の種名、個体数、確認位置、確認状況（採餌、休憩等）、確認された環境類型区分、繁殖に係る行動等を記録した。</td> </tr> </tbody> </table>	調査方法	調査内容	ラインセンサス法	調査ルートの両側に出現した鳥類の種名、個体数、確認状況、確認された環境、繁殖に係る行動等を記録した。	定点観察法	調査定点から双眼鏡及び直視型望遠鏡を用いて、観察される鳥類の種名、個体数、確認位置、確認状況（採餌、休憩等）、確認された環境類型区分、繁殖に係る行動等を記録した。						
調査方法	調査内容												
ラインセンサス法	調査ルートの両側に出現した鳥類の種名、個体数、確認状況、確認された環境、繁殖に係る行動等を記録した。												
定点観察法	調査定点から双眼鏡及び直視型望遠鏡を用いて、観察される鳥類の種名、個体数、確認位置、確認状況（採餌、休憩等）、確認された環境類型区分、繁殖に係る行動等を記録した。												
⑧													
⑨	<p><b>【底生動物調査】</b> 深さ20cm程度までの砂泥を採集し、目合2mmの篩を使い底生動物を採集した。採集したサンプルは可能な限り分析した。</p>												
⑩	<p><b>【コクガン生息状況調査】</b> 蒲生海岸におけるコクガン生息の要因、生息への脅威とその回避行動を把握するため、次の項目について調査を行った。個体数、飛来及び飛去の方向、利用位置、行動、群構成（家族、若鳥）、移動、その他（コクガンの生息に関して気づいたことは全て記録する）。観察定点は、コクガンの飛来地が見やすい場所、しかしその行動に影響を与えない遮蔽物のある場所を選定した。</p>												
⑪													
⑫	<p>ハクチョウ、ガン、カモ、カイツブリ、バン仲間を対象種として、秋と春の渡り時期及び、冬の越冬時期に個体数のカウントを実施した。</p>												
⑬	<p>シギ・チドリ類、絶滅危惧種のズグロカモメ・クロツラヘラサギ・ヘラサギ・ツクシガモの個体数調査及び調査サイト周辺の環境状況の調査を行った。</p>												
⑭	<p>東日本大震災によって大きな被害を受けた蒲生干潟が、豊かな干潟として回復する過程を科学の視点（動植物や地形、塩分濃度等）で継続観察しているが、調査方法の詳細は不明である。</p>												
⑮	<p>蒲生干潟の海岸風景と観察した野鳥や生物を写真と共に紹介しているが、調査方法の詳細は不明である。</p>												
⑯	<p>深さ20cm程度までの砂泥を採集し、目合2mmの篩を使い底生動物を採集した。採集したサンプルは可能な限り分析した。生息密度が低い、移動性が高い、あるいは底質深くに生息する生物種は、調査面積・深度が限られる定量調査では把握できないことから、これらの生物の存在を確認するため定性調査を実施した。</p>												
⑰													
⑱													

注：「資料番号」の①～⑱は、表8.8-3の資料番号に対応する。

表 8.8-5 注目すべき動植物種の選定基準（動物）

判断基準	記号等	説明	
文化財保護法	特大	「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）における特別天然記念物	
	天	「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）における天然記念物	
種の保存法	国内	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成4年法律第75号）における国内希少野生動植物	
	国際	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成4年法律第75号）における国際希少野生動植物	
環境省RL2018 「環境省レッドリスト2018」（環境省、平成30年）掲載種	EX	絶滅	
	EW	野生絶滅	
	CR	絶滅危惧ⅠA類	
	EN	絶滅危惧ⅠB類	
	VU	絶滅危惧Ⅱ類	
	NT	準絶滅危惧	
	DD	情報不足	
	LP	絶滅のおそれのある地域個体群	
	環境省海洋生物RD 「環境省レッドリスト2017」（環境省、平成29年）掲載種	EX	絶滅
		EW	野生絶滅
CR		絶滅危惧ⅠA類	
EN		絶滅危惧ⅠB類	
VU		絶滅危惧Ⅱ類	
NT		準絶滅危惧	
DD		情報不足	
LP		絶滅のおそれのある地域個体群	
宮城県RDB 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成28年）掲載種	EX	絶滅	
	EW	野生絶滅	
	CR+EN	絶滅危惧Ⅰ類	
	VU	絶滅危惧Ⅱ類	
	NT	準絶滅危惧	
	DD	情報不足	
要	要注目種		
学術上重要種	1	仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種。あるいは生息地・生育地がごく限られている種。	
	2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限となる種。	
	3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種。	
	4	1、2、3には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種（継続的に観察・研究されている種など。）。	
減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。	
	EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。	
	A	現在ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種。	
	B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種。	
	C	減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種。	
	+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種。	
	/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい。	
	・	判断に資する情報がない。	
環境指標種	○	仙台市の各環境分類における環境を指標する種（ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標。）。	

〔平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書〕（平成29年、仙台市）より作成

表 8.8-6 注目すべき種の選定基準における減少種の地域区分（動物）

No.	地域区分	
1	山地地域	
2	西部丘陵地・田園地域	
3	市街地地域	
4	東部田園地域	
5	海浜地域（後背の樹林も含む）	

注：計画地は、「市街地地域」に位置する。

〔「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年、仙台市）  
 「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画2011-2020（改定版）」（平成28年3月、仙台市）より作成〕

### (3) 調査地域及び調査地点

#### ① 既存資料調査

##### ア. 調査地域等

調査地域は蒲生干潟とし、「8.7 植物」と同様に図8.7-1に示す範囲を基本とした。

蒲生干潟の植生は、干潟環境の自然裸地及び開放水域が大半を占めているが、クロマツ植林、ヨシクラス、塩沼地植生、路傍・空地雑草群落等も分布しており、多様な環境類型区分となっている。

なお、収集した既存資料には、図8.7-1に示す調査地域周辺で確認された種も含まれる可能性が考えられるが、蒲生干潟における環境類型区分の多様性を勘案し、既存資料に示される確認種の全てについて蒲生干潟で確認されたものと見なした。

#### (4) 調査期間等

調査対象とする既存資料は、東日本大震災発生（平成23年3月11日）以降に現地調査が実施されたものとした。

各既存資料における調査期日は、表8.8-7のとおりである。

表 8.8-7 既存資料における調査期日（動物）

資料番号	既存資料名	調査期日
①	「平成25年度東北地方太平洋沿岸地域植生・湿地変化状況等調査 調査報告書」	哺乳類：平成25年9月24日、鳥類：平成25年9月24日、両生類：平成25年9月24日、爬虫類：平成25年9月24日、昆虫類：平成25年7月14日、10月21日、底生動物：平成25年9月24日
②	「平成26年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査 調査報告書」	哺乳類：平成26年7月16日・10月11日、鳥類：平成26年7月28日・9月22日、両生類：平成26年7月16日・10月11日、爬虫類：平成26年7月16日・10月11日、昆虫類：平成26年7月16日・10月11日、底生動物：平成26年7月16日・10月11日
③	「平成27年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査 調査報告書」	哺乳類：平成27年8月4日・10月10日、鳥類：平成27年8月4日・10月10日、両生類：平成27年8月4日・10月10日、爬虫類：平成27年8月4日・10月10日、昆虫類：平成27年8月4日・9月20日、底生動物：平成27年8月4日・10月10日
④	「平成23年度 東日本大震災による自然公園等への影響調査業務報告書 上巻」	平成23年6月29日・7月22日・8月19日・9月16日・10月14日・11月10日
⑤	「平成24年度国指定仙台海浜鳥獣保護区鳥類モニタリング調査業務 報告書」	平成24年4月～平成25年3月、各月1～3回
⑥	「平成25年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書」	平成25年7月27日～28日・8月22日～23日・9月19日～20日・10月23日～24日・11月19日～20日・12月16日～17日・平成26年1月6日～7日・1月27日～28日、底生動物：平成25年8月19日～20日・11月14日～15日
⑦	「平成26年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書」	平成26年6月14日～15日・7月13日・25日・8月25日・9月9日・10月10日・11月7日・12月8日・平成27年1月6日～7日、底生動物：平成26年8月12日・10月8日・10日
⑧	「平成27年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務＝震災後の鳥類の利用状況等の把握＝報告書」	平成27年6月1日～2日・23日～24日・7月15日・8月10日・28日・9月14日・10月14日・11月10日・12月9日・平成28年1月8日、底生動物：平成27年7月30日・10月14日
⑨	「平成28年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書」	平成28年4月19日・5月6日・6月19日・7月18日・8月20日・9月17日・10月3日・16日・11月14日・12月16日・平成29年1月13日
⑩	「平成27年度国指定仙台海浜鳥獣保護区におけるコクガン生息状況調査業務調査報告書」	平成27年12月13日・20日・27日・平成28年1月9日・16日・23日・28日・31日・2月6日・11日・14日・27日
⑪	「平成28年度国指定仙台海浜鳥獣保護区におけるコクガン生息状況調査業務調査報告書」	平成28年12月11日・17日・25日・平成29年1月3日・8日・14日・22日・28日・2月4日・18日
⑫	「モニタリングサイト1000」（ガンカモ類調査）	平成24～29年の各年において以下の時期 春期調査：2月～5月、秋期調査：9月～11月、冬期調査：12月～1月
⑬	「モニタリングサイト1000」（シギ・チドリ類調査）	平成24～29年の各年において以下の時期 春期調査：4月～5月、秋期調査：8月～9月、冬期調査：12月～2月
⑭	「自然豊かな蒲生干潟 継続観察プロジェクト 仙台市科学館蒲生調査レポート」	平成23年4月13日に初回調査、以降、毎月数日調査
⑮	「高砂市民センター 仙台・蒲生の自然」	平成28年11月13日・12月5日・平成29年1月22日・2月19日・3月12日・4月23日・29日・5月4日・12日・6月18日・7月9日・30日・8月20日・24日、底生動物：平成29年3月12日・4月29日・7月9日・30日・8月20日・24日（記述がある日、上記とはすべて重なる）
⑯	「平成24年度 東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査等業務報告書」	平成24年7月19日
⑰	「平成26年度 東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査 調査報告書」	平成26年6月16日
⑱	「平成27年度 東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査 調査報告書」	平成27年7月2日

(5) 調査結果

① 既存資料調査

ア. 哺乳類

(7) 確認種

既存資料調査の結果は表8.8-8のとおりであり、2目2科3種が確認された。

表 8.8-8 哺乳類の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	既存資料				
				①	②	③	④	⑮
1	モグラ(食虫)	モグラ	アズマモグラ		○	○		
2	ネコ(食肉)	イヌ	タヌキ		○	○		
3			キツネ	○	○		○	○
計	2目	2科	3種	1種	3種	2種	1種	1種

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（平成30年、国土交通省）に準拠した。

2. 「既存資料」の①～⑮は、表8.8-3の資料番号に対応する。

(4) 注目すべき種

確認された哺乳類のうち、表8.8-5・6に示した選定基準に該当する注目すべき種はなかった。

イ. 鳥類

(7) 確認種

既存資料調査の結果は表8.8-9のとおりであり、16目39科140種が確認された。

表 8.8-9(1) 鳥類の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	既存資料																
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮		
1	キジ	キジ	キジ	○	○			○	○	○	○	○								
2	カモ	カモ	コクガン					○		○	○	○	○	○	○			○		
3			コハクチョウ							○	○									
4			オオハクチョウ	○							○								○	
5			オカヨシガモ	○		○				○	○	○	○						○	
6			ヨシガモ								○	○	○						○	
7			ヒドリガモ	○		○	○	○	○	○	○	○	○						○	○
8			アメリカヒドリ					○			○								○	
9			マガモ	○		○	○	○	○	○	○	○	○						○	○
10			カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○	○
11			ハシビロガモ		○	○		○			○	○	○						○	
12			オナガガモ	○		○	○	○	○	○	○	○	○						○	○
13			コガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○	
14			ホシハジロ					○	○	○	○	○	○						○	○
15			キンクロハジロ			○		○	○	○	○	○	○						○	○
16			スズガモ			○		○	○	○	○	○	○						○	○
17			ピロードキンクロ							○									○	
18			クロガモ																○	
19			ホオジロガモ					○	○	○	○	○	○						○	○
20			ミコアイサ					○		○	○	○	○						○	○
21			カワアイサ					○	○	○									○	

表 8.8-9(2) 鳥類の確認種 (既存資料調査結果)

No.	目名	科名	種名	既存資料																				
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮						
22	カモ	カモ	ウミアイサ										○				○				○			
23	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
24			カンムリカイツブリ		○	○		○	○	○	○	○	○								○	○		
25			ミミカイツブリ							○	○		○											
26			ハジロカイツブリ								○		○											
27	ハト	ハト	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
28			カワラバト		○				○					○										
29	アビ	アビ	シロエリオオハム																			○		
30	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
31			ウミウ	○							○	○	○											
32	ペリカン	サギ	サンカノゴイ																			○		
33			ヨシゴイ			○								○	○									
34			ゴイサギ					○	○	○		○												
35			ササゴイ		○		○					○	○	○										
36			アマサギ				○																	
37			アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									○	
38			ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									○	
39			チュウサギ	○										○	○								○	
40			コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									○	
41			カラシラサギ											○	○									
42	ツル	クイナ	クイナ									○	○	○										
43			バン	○	○	○	○	○				○	○	○										
44			オオバン	○	○	○		○	○	○	○	○	○										○	
45	カッコウ	カッコウ	カッコウ																			○		
46	チドリ	チドリ	タゲリ																			○		
47			ムナグロ				○							○									○	
48			ダイゼン	○	○	○					○		○	○									○	
49			ハジロコチドリ												○								○	
50			イカルチドリ							○														
51			コチドリ		○	○	○	○				○	○	○									○	
52			シロチドリ		○				○	○	○	○	○	○									○	
53			メダイチドリ	○								○	○	○	○								○	
54			オオメダイチドリ																				○	
55			ミヤコドリ	ミヤコドリ																				○
56			セイタカシギ	セイタカシギ																				○
57			シギ	オオジシギ																				○
58				タシギ			○								○	○								○
59				オグロシギ			○								○	○								
60	オオソリハシシギ	○			○			○	○			○	○									○		
61	チュウシャクシギ							○					○									○		
62	ホウロクシギ	○									○											○		
63	アカアシシギ				○							○												
64	コアオアシシギ																					○		
65	アオアシシギ			○	○	○			○	○	○	○	○									○		
66	キアシシギ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									○		
67	ソリハシシギ			○		○					○	○	○									○		
68	イソシギ			○	○	○				○	○	○	○									○		
69	キョウジョシギ					○				○													○	
70	オバシギ				○	○				○	○	○	○										○	
71	コオバシギ	○										○	○											

表 8.8-9(3) 鳥類の確認種 (既存資料調査結果)

No.	目名	科名	種名	既存資料																	
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮			
72	チドリ	シギ	ミュビシギ				○			○	○	○					○	○	○		
73			トウネン		○		○	○	○	○	○	○						○		○	
74			サルハマシギ																○		
75			ハマシギ				○		○	○	○	○	○						○	○	○
76			キリアイ					○											○		
77			エリマキシギ				○						○						○		
78			カモメ	ユリカモメ				○	○			○	○	○						○	
79	チドリ	カモメ	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○							○		
80			カモメ					○	○	○	○	○									
81			セグロカモメ					○	○	○		○									
82	チドリ	カモメ	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
83			ハシブトアジサシ									○									
84			コアジサシ			○															
85			アジサシ										○								
86	ウミスズメ	ウミスズメ																○			
87	タカ	ミサゴ	ミサゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
88		タカ	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○								○	
89			ハイタカ									○									
90			オオタカ			○	○	○	○			○	○								
91			ノスリ			○	○		○	○	○	○	○								
92	フクロウ	フクロウ	コミミズク																○		
93	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		○	○	○	○	○	○	○	○									
94	キツツキ	キツツキ	コゲラ	○	○			○													
95			アカゲラ			○														○	
96			アオゲラ			○															
97	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		○	○	○	○	○	○	○	○									
98			コチョウゲンボウ									○									
99			ハヤブサ	○			○		○	○	○	○									
100	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ																○		
101		モズ	モズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
102		カラス	カケス																	○	
103			オナガ			○															
104			ミヤマガラス										○								
105			ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								○
106			ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
107		シジュウカラ	シジュウカラ	○	○		○	○	○	○	○	○									
108		ヒバリ	ヒバリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
109		ツバメ	ショウドウツバメ																	○	
110			ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
111			イワツバメ					○													
112		ヒヨドリ	ヒヨドリ		○	○	○	○	○	○	○	○									
113		ウグイス	ウグイス	○		○					○	○	○								
114	メジロ	メジロ																	○		
115	センニュウ	オオセッカ			○																
116	ヨシキリ	オオヨシキリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
117		コヨシキリ		○	○		○	○	○	○	○										
118	セッカ	セッカ	○	○	○				○	○	○	○									
119	ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
120	ヒタキ	ツグミ					○	○	○	○	○								○		
121		ジョウビタキ				○	○	○	○	○	○										

表 8.8-9(4) 鳥類の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	既存資料															
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	
122	スズメ	ヒタキ	ノビタキ		○														
123			イソヒヨドリ				○				○	○	○						
124			キビタキ			○													
125		スズメ	スズメ		○	○	○	○	○	○	○	○	○						
126		セキレイ	ハクセキレイ		○	○	○	○	○	○	○	○	○						
127			セグロセキレイ				○		○		○		○						
128			ピンズイ										○						
129		セキレイ	タヒバリ								○		○						
130		アトリ	アトリ								○								
131			カワラヒワ		○	○	○	○	○	○	○	○	○						
132			マヒワ						○	○									
133			ベニマシコ					○				○	○	○					
134			ウソ									○							
135			シメ									○							
136	ホオジロ	ホオジロ		○	○	○	○	○	○	○	○	○							
137		ホオアカ		○			○		○	○	○	○							
138		カシラダカ					○			○		○							
139		アオジ			○	○	○	○	○	○	○	○							
140		オオジュリン					○		○	○	○	○							
計	16 目	39 科	140 種	44 種	53 種	57 種	53 種	68 種	69 種	87 種	86 種	102 種	1 種	1 種	20 種	26 種	23 種	23 種	

注：1. 種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」（平成24年、日本鳥学会）に準拠した。  
 2. 「既存資料」の①～⑮は、表8.8-3の資料番号に対応する。

(イ) 注目すべき種

確認された鳥類のうち、表8.8-5・6に示した選定基準に該当する注目すべき種は、表8.8-10のとおりであり、12目27科51種が確認された。

また、注目すべき種の特性及び確認状況は、表8.8-11のとおりである。

表 8.8-10(1) 鳥類の注目すべき種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	調査時期				注目すべき種の選定基準												
				春 季	夏 季	秋 季	冬 季	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RL2018	宮城県 RDB	学術上 重要	仙台市					環境 指標種		
													減少種							
											1	2	3	4	5					
1	カモ	カモ	コクガン	●			●	天		VU	VU	1,2,4	/	/	/	・	B			
2	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	●	●	●	●						・	C	B	C	C	○		
3	ペリカン	サギ	サンカノゴイ				●			EN	NT	1	・	B	A	B	B			
4			ヨシゴイ		●	●					NT	NT	1,4	・	C	B	C	C	○	
5			アマサギ		●								4	・	・	A	+	・	○	
6			チュウサギ		●	●						NT		1,2,4	・	C	A	C	C	
7			コサギ		●	●	●	●							・	C	B	+	+	○
8					カラシラサギ	●	●					NT	DD							
9	ツル	クイナ	クイナ			●	●				要	1,4	・	C	A	B	B			
10			バン		●	●	●						1,4	・	C	B	C	C	○	
11			オオバン		●	●	●	●						・	・	・	B	B		
12	カッコウ	カッコウ	カッコウ		●							1,4	C	C	B	C	C	○		

表 8.8-10(2) 鳥類の注目すべき種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	調査時期				注目すべき種の選定基準												
				春季	夏季	秋季	冬季	文化財保護法	種の保存法	環境省 RL2018	宮城県 RDB	学術上重要	仙台市					環境指標種		
													減少種							
										1	2	3	4	5						
13	チドリ	チドリ	イカルチドリ				●					1,4	C	C	B	B	・	○		
14			シロチドリ	●	●	●	●				VU	NT	1,4	・	・	・	・	B	○	
15			メダイチドリ	●	●	●				国際										
16			オオメダイチドリ	●						国際										
17		セイタカシギ	セイタカシギ	●		●					VU									
18		シギ	オオジシギ	●							NT	NT	1,4	B	B	A	B	B		
19			オオソリハシギ	●		●					VU									
20			ホウロクシギ	●		●				国際	VU	NT	1,4	・	・	・	・	B		
21			アカアシシギ		●	●					VU		1	・	・	・	B	B		
22			オバシギ		●	●				国際										
23			コオバシギ		●	●				国際										
24			サルハマシギ			●				国際										
25			ハマシギ	●		●	●				NT		1,4	・	・	・	・	C	○	
26		カモメ	コアジサシ		●					国際	VU	VU	1,2,4	・	・	A	B	B		
27	ウミスズメ	ウミスズメ	●							CR		1,4	/	/	/	/	・			
28	タカ	ミサゴ	ミサゴ	●	●	●	●			NT		1,4	・	・	・	C	C	○		
29		タカ	ハイタカ			●				NT	NT	1,4	C	C	C	C	C			
30			オオタカ		●	●	●				NT	NT	1,4	C	C	B	B	C	○	
31			ノスリ		●	●	●							+	C	C	C	・	○	
32	フクロウ	フクロウ	コミミズク				●				要	1	・	B	A	B	B	○		
33	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		●	●	●					1,4	・	C	C	C	・	○		
34	キツツキ	キツツキ	アカゲラ			●							+	C	B	C	C			
35			アオゲラ			●								+	C	B	C	C	○	
36	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		●	●	●					1,4	・	C	B	C	B			
37			ハヤブサ		●	●	●			国内	VU	NT	1,4	C	B	B	B	B		
38	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ			●				VU	VU		C	C	B	C	C			
39		モズ	モズ	●	●	●	●					1	+	C	B	C	C	○		
40		ヒバリ	ヒバリ	●	●	●	●							・	C	B	C	C	○	
41		ツバメ	ツバメ	●	●	●								・	C	C	C	・	○	
42		ウグイス	ウグイス	●	●	●	●					1,4	+	+	C	C	C	○		
43		センニュウ	オオセッカ			●			国内	EN	VU	1,3,4	・	・	・	・	・			
44		ヨシキリ	オオヨシキリ	●	●	●						1,4	・	C	B	C	C	○		
45			コヨシキリ		●	●						1,4	・	C	A	C	C	○		
46		セッカ	セッカ	●	●	●	●					1,4	・	C	B	C	C	○		
47		ヒタキ	キビタキ			●								+	C	B	・	・	○	
48		セキレイ	セグロセキレイ		●	●	●					4	C	C	C	C	・			
49		ホオジロ	ホオジロ	●	●	●	●							+	+	B	C	C	○	
50			ホオアカ		●	●								B	C	A	C	B	○	
51			アオジ	●	●	●	●							C	C	C	C	C	○	
計	12 目	27 科	51 種	24 種	32 種	40 種	23 種	1 種	9 種	20 種	15 種	30 種	43 種	43 種	43 種	43 種	43 種	26 種		

注：1. 種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」（平成24年、日本鳥学会）に準拠した。  
 2. 確認時期は、「気象庁HP 気象庁が天気予報等で用いる予報用語」に基づき、3～5月を春季、6～8月を夏季、9～11月を秋季、12～2月を冬季とした。  
 3. 注目すべき種の選定基準の区分は、表8.8-5・6のとおりである。

表 8.8-11(1) 注目すべき種の特性及び確認状況（コクガン）

種名		コクガン					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	天			種の保存法	-	
	環境省RL	VU			宮城県RDB	VU	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	1,2,4	/	/	/	・	B	
種 の 特 性 (※)	全国分布	主な越冬地は、東北地方北部から北海道南部の太平洋側の海岸。少数だが東海地方でも不定期に越冬する。					
	仙台市内の分布	東部海岸、七北田川河口。					
	形態	全長61cm。頭部から頸と胸が黒く、頸に頸輪状の白色部があり、内側に筋状の黒色部が入る。背面と腹部は黒褐色で脇腹は白っぽく、黒褐色の筋状の斑がある。尾は黒く、上・下尾筒は白い。					
	生息環境	越冬地では、海岸の入り江や内湾の砂浜、遠浅の砂泥地などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
⑤	平成24年度の冬季（12～2月）及び春季（3月）調査時に生息を確認した。			-	35		
⑦	平成26年度の冬季（12月～1月）調査時に生息を確認した。			5	140		
⑧	平成27年度の冬季（1月）調査時に生息を確認した。			1	30		
⑨	平成28年度の冬季（12月～1月）調査時に生息を確認した。			2	90		
⑩	平成27年度の冬季（12月～2月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑪	平成28年度の冬季（12月～2月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑫	平成23年度～平成29年度の冬季（12～2月）及び春季（3月）調査時に確認した。			-	-		
⑮	平成28年度の冬季（12月）調査時に水域で生息を確認した。			-	-		
合計					295		

表 8.8-11(2) 注目すべき種の特性及び確認状況（カイツブリ）

種名		カイツブリ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	・	C	B	C	C	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	朴沢、丸田沢、旗立、井土浦、大沼、蒲生など。					
	形態	全長26cm。成鳥夏羽の頭は黒く、顔から頸は赤褐色。冬羽は全体的にやや淡色になる					
	生息環境	平地から山地の湖沼、池、河川、河口、内湾などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に開放水域で生息を確認した。			-	-		
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
④	平成23年度の夏季（8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			2	2		
⑤	平成24年度の冬季（12～2月）及び春季（3月）調査時に生息を確認した。			-	16		
⑥	平成25年度の秋季（10～11月）及び冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			10	17		
⑦	平成26年度の夏季（8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12月～1月）調査時に生息を確認した。			23	97		
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			34	99		
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び夏季（6～7月）、秋季（9～11月）、冬季（12月～1月）調査時に生息を確認した。			22	59		
合計					290		

表 8.8-11(3) 注目すべき種の特性及び確認状況（サンカノゴイ）

種 名		サンカノゴイ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	EN			宮城県RDB	NT	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
1	・	B	A	B	B		
(※) 種の特性	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	蒲生、井土浦など。					
	形 態	全長76cm。頸や胴の太いずんぐりした体形で、頸は短く見えるが、のぼすと長い。飛翔時は翼が幅広く大きく、静止時より体は細く見える。					
	生息環境	湖沼や池、河川、湿地などの広大なアシ原に生息。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
⑨	平成28年度の冬季（12月）調査時に生息を確認した。			1	1		
合 計					1		

表 8.8-11(4) 注目すべき種の特性及び確認状況（ヨシゴイ）

種 名		ヨシゴイ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	NT			宮城県RDB	NT	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
1,4	・	C	B	C	C	○	
(※) 種の特性	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	七北田川、蒲生、中田、種次、広瀬川、大沼、南長沼など。					
	形 態	全長37cm。成鳥雄は上面が茶褐色で、頭頂は青味のある黒色。喉からの体下面は淡い黄白色で、淡茶褐色の縦斑が中央にある。成鳥雌は頭の暗青色は後頭だけで、喉の下の縦線がはっきりと5本ある。					
	生息環境	アシ原、水田、湿地、湖沼、池、河川などに生息。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
③	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑧	平成27年度の夏季（6月）調査時に生息を確認した。			1	1		
⑨	平成28年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			1	1		
合 計					2		

表 8.8-11(5) 注目すべき種の特性及び確認状況（アマサギ）

種 名		アマサギ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
4	・	・	A	+	・	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	井土浦、中野、岡田、南蒲生、蒲生など。					
	形 態	全長50cm。コサギより一回り小さい。成鳥夏羽は頭から頸にかけてと、背に橙黄色の飾り羽がある。成鳥冬羽では全体的に白く、頭頂にわずかに黄色味がある。					
	生息環境	水田、湿地、草地、放牧地などに生息。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
④	平成23年度の夏季（7月）調査時に生息を確認した。			1	1		
合 計					1		

表 8.8-11(6) 注目すべき種の特性及び確認状況（チュウサギ）

種 名		チュウサギ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	NT			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
1,2,4	・	C	A	C	C		
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	蒲生二本木、蒲生海岸、大沼、赤沼、南長町、南蒲生など。					
	形 態	全長68cm。成鳥夏羽は嘴が黒く、喉元と背面に飾り羽がある。成鳥冬羽では飾り羽がなく、嘴は橙黄色で、上嘴の先端にわずかに黒い部分がある。					
	生息環境	草地、水田、湿地、湖沼、池などに生息。まれに干潟や河川にも入る。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に開放水域で生息を確認した。			-	-		
⑧	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。			2	5		
⑨	平成28年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			1	1		
⑭	平成27年度の秋季（11月）調査時に生息を確認した。			-	-		
合 計					6		

表 8.8-11(7) 注目すべき種の特性及び確認状況（コサギ）

種名		コサギ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	・	C	B	+	+	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州～九州。					
	仙台市内の分布	広瀬川、名取川、天神沢、大沼、赤沼、蒲生二木、蒲生海岸など。					
	形態	全長61cm。一年中嘴が黒くて、足の指が黄色い。成鳥夏羽は後ろ頭に2本の長い冠羽があり、胸、肩羽と背面の羽毛が飾り羽になる。成鳥冬羽では飾り羽が短くなって目立たなくなる。					
	生息環境	河川、水田、湖沼、池、湿地、河口、干潟、海岸などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
④	平成23年度の夏季（6～8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			6	25		
⑤	平成24年度の春季（4～5月）及び夏季（6～8月）、秋季（9～11月）調査時に生息を確認した。			-	54		
⑥	平成25年度の夏季（7～8月）及び秋季（9～11月）及び冬季（1月）調査時に生息を確認した。			19	30		
⑦	平成26年度の夏季（6～8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			23	28		
⑧	平成27年度の夏季（7～8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12月）調査時に生息を確認した。			20	46		
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び夏季（7～8月）、秋季（9～11月）調査時に生息を確認した。			36	85		
⑩	平成28年度の秋季（11月）調査時に水域で生息を確認した。			-	-		
合計					268		

表 8.8-11(8) 注目すべき種の特性及び確認状況（カラシラサギ）

種名		カラシラサギ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	NT			宮城県RDB	DD	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～沖縄。旅鳥、またはまれな冬鳥。					
	仙台市内の分布	若林区、宮城野区。					
	形態	全長68cm。成鳥夏羽では後ろ頭に房状の冠羽がある。嘴は橙黄色で、目先は青い。足は黒く、脛節が淡色で足の指は黄色。成鳥冬羽では飾り羽は短くなり、目先は黄色。					
	生息環境	海岸、河口、干潟、水田、湿地、河川などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
⑧	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。			1	1		
⑨	平成28年度の春季（5月）調査時に生息を確認した。			1	1		
合計					2		

表 8.8-11(9) 注目すべき種の特性及び確認状況（クイナ）

種名		クイナ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-		
	環境省RL	-			宮城県RDB	要		
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
1,4	・	C	A	B	B			
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～本州。						
	仙台市内の分布	将監、三共堤、富田、鶴ヶ谷、広瀬川、大年寺山、井土浦、大沼、蒲生など。						
	形態	全長29cm。成鳥は額から尾羽までの上面が茶褐色で、黒い縦斑がある。顔から胸は青灰色で、黒い過眼線がある。下腹部は白黒の横斑。						
	生息環境	平地から低山の水辺の草地、アシ原、休耕田、水田などに生息。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
⑦	平成26年度の冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。				2	2		
⑧	平成27年度の秋季（11月）調査時に生息を確認した。				1	1		
⑨	平成28年度の冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。				2	2		
合計						5		

表 8.8-11(10) 注目すべき種の特性及び確認状況（バン）

種名		バン						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-		
	環境省RL	-			宮城県RDB	-		
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
1,4	・	C	B	C	C	○		
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～沖縄。						
	仙台市内の分布	大沼、赤沼、広瀬川、台原、井土浦、笹屋敷、蒲生など。						
	形態	全長32cm。成鳥頭部から頸と体下面が灰色味のある黒色で、脇腹には白い縦斑がある。嘴の先は黄色で他は赤く、額板につながっている。						
	生息環境	平地から山地の湖沼、池、河川、水田、湿地などに生息。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に開放水域で生息を確認した。				-	-		
②	平成26年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。				-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。				-	-		
④	平成23年度の夏季（7月）調査時に生息を確認した。				2	2		
⑤	平成24年度の夏季（6月）調査時に生息を確認した。				-	1		
⑦	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。				2	2		
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。				8	14		
⑨	平成28年度の春季（5月）及び夏季（6～7月）、秋季（9～10月）調査時に生息を確認した。				14	26		
合計						45		

表 8.8-11(11) 注目すべき種の特性及び確認状況（オオバン）

種名		オオバン					
注目すべき種の選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上重要種	減少種					環境指標種
		山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	
	.	.	.	B	B		
種の特性(※)	全国分布	北海道～沖縄。					
	仙台市内の分布	井土浦、大沼、赤沼、蒲生、水の森公園など。					
	形態	全長39cm。成鳥は全体が黒くて、上面には青灰色味がある。嘴は白くて、額に盛り上がるように額板がある。					
	生息環境	平地から低山の湖沼、池、河川、ハス田などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に開放水域で生息を確認した。			-	-		
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑤	平成24年度の冬季（1～2月）及び春季（3月）調査時に生息を確認した。			-	20		
⑥	平成25年度の秋季（11月）及び冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			13	83		
⑦	平成26年度の秋季（10～11月）及び冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			20	383		
⑧	平成27年度の秋季（10～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			19	114		
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び秋季（9～11月）、冬季（1月）調査時に生息を確認した。			12	149		
⑭	平成24年度の冬季（1月）調査時に水域で生息を確認した。			-	-		
合計					749		

表 8.8-11(12) 注目すべき種の特性及び確認状況（カッコウ）

種名		カッコウ					
注目すべき種の選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上重要種	減少種					環境指標種
		山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	
	1,4	C	C	B	C	○	
種の特性(※)	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	七北田川、鶴ヶ谷、広瀬川、台原、青葉山、定義、泉ヶ岳、将監、名取川、井土浦、蒲生。					
	形態	全長35cm。成鳥の上面は淡い青灰色で、風切は黒褐色。喉から胸は灰色。腹は白く、灰黒色の横斑がある。下尾筒は白く、羽先はわずかに黒い。					
	生息環境	平地から山地の林や草原などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
⑨	平成28年度の夏季（6月）調査時に生息を確認した。			1	1		
合計					1		

表 8.8-11(13) 注目すべき種の特性及び確認状況（イカルチドリ）

種 名		イカルチドリ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
1,4	C	C	B	B	・	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州以南。					
	仙台市内の分布	丸田沢、芋沢、広瀬川、名取川、七北田川など。					
	形 態	全長21cm。成鳥の額は白く、頭は暗灰色。前頭と過眼線は黒いが、コチドリより淡色。胸の黒い帯もコチドリより細くて淡色。上面は灰褐色で、体下面は白い。					
	生息環境	砂礫地がある河川、湖沼、池、水田などに生息。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
⑤	平成24年度の冬季（1月）調査時に生息を確認した。			-	1		
合 計					1		

表 8.8-11(14) 注目すべき種の特性及び確認状況（シロチドリ）

種 名		シロチドリ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	VU			宮城県RDB	NT	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
1,4	・	・	・	・	B	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州以南。					
	仙台市内の分布	名取川、井土浦、荒浜、蒲生など。					
	形 態	全長17cm。成鳥夏羽雄は額と眉斑は白色で、前頭は黒く、頭頂と後頭は橙黄褐色。黒い過眼線がある。成鳥冬羽と幼鳥は全体的に夏羽より淡色。					
	生息環境	海岸の砂浜、河口、干潟、河川、沿岸の造成地や埋立地などに生息。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に干潟及び砂浜で生息を確認した。			-	-		
⑤	平成24年度の夏季（6月）及び秋季（11月）調査時に生息を確認した。			-	10		
⑥	平成25年度の夏季（7～8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			12	113		
⑦	平成26年度の夏季（7～8月）及び秋季（9,11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			38	161		
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			32	180		
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び夏季（6～8月）、秋季（10～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			43	220		
⑬	平成23年度～平成29年度の春季（4～5月）及び夏季（8月）、秋季（9月）、冬季（1～2月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑭	平成26年度の冬季（2月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
⑮	平成28年度の冬季（1～2月）及び平成29年度の夏季（6月）調査時に砂浜で生息を確認した。			-	-		
合 計					684		

表 8.8-11(15) 注目すべき種の特性及び確認状況（メダイチドリ）

種名		メダイチドリ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	国際
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
種 の 特 性 (※)	全国分布	日本には旅鳥として飛来し、沖縄では少数が冬鳥。				
	仙台市内の分布	-				
	形態	全長19cm。成鳥夏羽雄の額は白く、中央に縦の黒線がある。前頭は黒く、太い黒色の過眼線につながる。頭頂と上面は褐色。喉と前頭は白く、細い黒線で縁取られている。頸側から胸は赤褐色、腹は白色。成鳥夏羽雌は、雄よりも全体的に淡色。成鳥冬羽は、夏羽の黒色と赤褐色の部分は淡褐色。				
	生息環境	海岸の砂浜、干潟、河口、河川などに生息。水田や湿地などにも入る。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-	
⑥	平成25年度の夏季（7月）調査時に生息を確認した。			1	1	
⑦	平成26年度の夏季（6～7月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			9	14	
⑧	平成27年度の夏季（6月）調査時に生息を確認した。			1	4	
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び夏季（7月）、秋季（9～11月）調査時に生息を確認した。			19	165	
⑬	平成23年度～平成29年度の春季（4～5月）及び夏季（8月）、秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-	
⑮	平成29年度の春季（5月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-	
合計					184	

表 8.8-11(16) 注目すべき種の特性及び確認状況（オオメダイチドリ）

種名		オオメダイチドリ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	国際
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
種 の 特 性 (※)	全国分布	日本には旅鳥として飛来し、南西諸島では少数が越冬。				
	仙台市内の分布	-				
	形態	全長24cm。雌雄同色で、成鳥夏羽の額から過眼線部分は黒く、額にはわずかに白い部分がある。頭頂と上面は淡褐色で、淡色の羽縁がある。前頭から後頭、頸側、胸と胸側は淡い橙色。喉と頬、体下面は白い。成鳥冬羽は、頭からの上面は淡褐色で、各羽にわずかに淡色の羽縁がある。胸側も淡褐色で、他は白い。				
	生息環境	海岸の砂浜、干潟、河口などに生息。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
⑬	平成29年度の春季（4月）調査時に生息を確認した。			-	-	
合計					-	

表 8.8-11(17) 注目すべき種の特性及び確認状況（セイタカシギ）

種 名		セイタカシギ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	VU			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
全国分布		日本全国。					
仙台市内の分布		-					
形 態		全長37cm。頭部の白色と黒色の入り方には個体変異がある。体下面は白っぽい。成鳥雄は背から腰が白い。肩羽と翼は黒く、紺色の光沢がある。成鳥雌は、頭の黒色がないか、あっても少ないものが多い。上面は黒褐色で光沢は少ない。					
生息環境		干潟、河口、海岸に近い湖沼、池、河川、水田、湿地などに生息。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
⑨	平成28年度の春季（5月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			5	8		
⑬	平成24年度及び平成29年度の春季（4月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑮	平成29年度の春季（4月）調査時に水域で生息を確認した。			-	-		
合 計					8		

表 8.8-11(18) 注目すべき種の特性及び確認状況（オオジシギ）

種 名		オオジシギ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	NT			宮城県RDB	NT	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
1,4	B	B	A	B	B		
全国分布		北海道～本州。					
仙台市内の分布		井土浦、蒲生、大沼、芳の平、南蒲生、名取川など。					
形 態		全長30cm。成鳥夏羽では、他のタンギ類よりも全体が白っぽい。					
生息環境		草地、牧草地、湿地、水田、畑、池などに生息。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
⑬	平成25年度の春季（5月）調査時に生息を確認した。			-	-		
合 計					-		

表 8.8-11(19) 注目すべき種の特性及び確認状況（オオソリハシシギ）

種名		オオソリハシシギ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	VU			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
種 の 特 性 (※)	全国分布	日本には旅鳥として飛来。					
	仙台市内の分布	-					
	形態	全長39cm。嘴は長く、少し上に反っている。成鳥夏羽雄は額から頭頂、後頭は黒褐色で、赤褐色の羽縁がある。顔からの体下面は赤褐色。肩羽は黒褐色で、赤褐色と白っぽい斑が混じる。成鳥夏羽雌は雄より全体に淡色で大きい。					
	生息環境	海岸の砂浜、干潟、河口、海に近い水田や河川などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑤	平成24年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	1		
⑥	平成25年度の秋季（9～10月）調査時に生息を確認した。			4	16		
⑧	平成27年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			4	10		
⑨	平成28年度の春季（4月）及び秋季（9～10月）調査時に生息を確認した。			11	34		
⑬	平成24年度～平成27年度、平成29年度の春季（4月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑮	平成29年度の春季（4月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
合計					61		

表 8.8-11(20) 注目すべき種の特性及び確認状況（ハウロクシギ）

種名		ハウロクシギ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	国際	
	環境省RL	VU			宮城県RDB	NT	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
1,4	.	.	.	.	B		
種 の 特 性 (※)	全国分布	日本には旅鳥として出現。					
	仙台市内の分布	蒲生、井土浦など。					
	形態	全長63cm。成鳥は全体的に褐色で、背には黒褐色と淡い橙褐色の斑が、頸からの体下面には黒褐色の縦斑が密にある。					
	生息環境	海岸の砂浜、干潟、河口、水田、草地などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
⑥	平成25年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			3	6		
⑬	平成25年度の秋季（9月）及び平成29年度の春季（4月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑭	平成25年度の春季（3月）調査時に砂地で生息を確認した。			-	-		
⑮	平成29年度の春季（4月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
合計					6		

表 8.8-11(21) 注目すべき種の特性及び確認状況（アカアシシギ）

種 名		アカアシシギ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		-	
	環境省RL	VU			宮城県RDB		-	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜		
1	.	.	.	B	B			
種 の 特 性 (※)	全国分布	日本には旅鳥として出現。						
	仙台市内の分布	井土浦、蒲生、大沼、赤沼等やその周辺の水田。						
	形 態	全長28cm。夏羽、冬羽、年齢に関係なく背、腰、次列風切は白い。成鳥夏羽は頭部からの上面は灰褐色で、暗褐色の縦斑と、白色と黒褐色の横斑が混じる。喉から下面は白く、黒褐色の縦斑がある。成鳥冬羽では全体の斑が淡い。						
	生息環境	湿地、水田、ハス田、干潟などに生息。						
番 号	確認状況			地点数	確認数			
③	平成27年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-			
⑦	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。			1	1			
合 計					1			

表 8.8-11(22) 注目すべき種の特性及び確認状況（オバシギ）

種 名		オバシギ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		国際	
	環境省RL	-			宮城県RDB		-	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜		
種 の 特 性 (※)	全国分布	日本には旅鳥として出現。						
	仙台市内の分布	-						
	形 態	全長27cm。成鳥夏羽は頭部から頸、胸にかけて白く、黒褐色の縦斑が密にある。背と胸は黒く、白と橙色の斑がある。肩羽は橙色で、軸斑が黒く羽縁は白い。成鳥冬羽の上面は黒灰色で、黒い軸斑と細くて白い羽縁がある。						
	生息環境	干潟、河口、海岸の砂浜や岩場、水田、河川などに生息。						
番 号	確認状況			地点数	確認数			
③	平成27年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-			
④	平成23年度の夏季（6月）調査時に生息を確認した。			1	1			
⑥	平成25年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			1	1			
⑦	平成26年度の夏季（6月）調査時に生息を確認した。			1	1			
⑧	平成27年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			2	2			
⑨	平成28年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			1	1			
⑬	平成25年度～平成27年度、平成29年度の夏季（8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-			
合 計					6			

表 8.8-11 (23) 注目すべき種の特性及び確認状況（コオバシギ）

種名		コオバシギ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	国際		
	環境省RL	-			宮城県RDB	-		
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
全国分布		日本には旅鳥として出現。						
仙台市内の分布		-						
形態		全長24cm。成鳥夏羽は翼以外赤褐色で、頭頂から背と、胸側から脇腹にかけて黒褐色の縦斑がある。成鳥冬羽は頭からの上面は淡灰褐色で、胸から脇腹には灰褐色の縦斑がある。						
生息環境		干潟、河口、入江、海岸の砂浜、水田などに生息。						
番号	確認状況			地点数	確認数			
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-			
⑦	平成26年度の夏季（6月）調査時に生息を確認した。			1	1			
⑨	平成28年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			3	4			
合計					5			

表 8.8-11 (24) 注目すべき種の特性及び確認状況（サルハマシギ）

種名		サルハマシギ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	国際		
	環境省RL	-			宮城県RDB	-		
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
全国分布		日本には旅鳥として出現。						
仙台市内の分布		-						
形態		全長21cm。成鳥夏羽雄は嘴基部に近い額と喉の狭い部分が白く、顔、頸、胸、腹は鮮やかな赤褐色。頭頂と上面は黒褐色で、白色の斑が目立つ。成鳥冬羽は頭からの上面は灰色、胸から腹は白く、胸に淡い灰色斑がある。						
生息環境		干潟、海岸の砂浜や水溜り、河口、水田などに生息。						
番号	確認状況			地点数	確認数			
⑬	平成25年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-			
合計					-			

表 8.8-11(25) 注目すべき種の特性及び確認状況（ハマシギ）

種名		ハマシギ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	NT			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
1,4	・	・	・	・	C	○	
(※) 種の特 性	全国分布	北海道～南西諸島。					
	仙台市内の分布	井土浦、蒲生広瀬川合流点付近など。					
	形態	全長21cm。成鳥夏羽の頭頂と上面は淡い茶色で、黒色斑がある。顔から胸は白っぽく、黒褐色の細い縦斑があり、腹は黒い。成鳥冬羽は上面が灰褐色で、褐色の縦斑があり、羽縁はわずかに白っぽい。					
	生息環境	干潟、河口、汽水湖、海岸の砂浜や岩場、水田、湿地、河川、湖沼や池の湿泥地などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
③	平成27年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑤	平成24年度の秋季（9～11月）及び冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			-	130		
⑥	平成25年度の秋季（10～11月）及び冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			9	208		
⑦	平成26年度の秋季（11月）及び冬季（12月）調査時に生息を確認した。			22	531		
⑧	平成27年度の秋季（9～11月）及び冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			18	389		
⑨	平成28年度の春季（4月）及び秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			16	427		
⑬	平成24年度～平成26年度の春季（5月）及び秋季（9月）、冬季（12月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑭	平成24年度の春季（3月）及び平成27年度の冬季（1月）調査時に水域で、平成27年度の冬季（2月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
⑮	平成28年度の冬季（1～2月）及び平成29年度の春季（5月）調査時に水域及び干潟で生息を確認した。			-	-		
合計					1,685		

表 8.8-11(26) 注目すべき種の特性及び確認状況（コアジサシ）

種名		コアジサシ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	国際	
	環境省RL	VU			宮城県RDB	VU	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
1,2,4	・	・	A	B	B		
(※) 種の特 性	全国分布	本州以南。					
	仙台市内の分布	名取川、広瀬川、井土浦、大沼、蒲生など。					
	形態	全長約24cm。アジサシよりかなり小さい。成鳥夏羽は頭と過眼線は黒く、上面は灰色で、額と体下面は白い。尾は白くて燕尾型。嘴は黄色で、先は黒い。足は橙色。成鳥冬羽は頭頂が白くなり、嘴は黒色、脚は暗黄褐色になる。					
	生息環境	海岸、内湾、港、河口、河川、湖沼、池などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
②	平成26年度の夏季（7月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑤	平成24年度の夏季（6月）調査時に生息を確認した。			-	7		
合計					7		

表 8.8-11 (27) 注目すべき種の特性及び確認状況（ウミスズメ）

種名		ウミスズメ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	CR			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
1,4	/	/	/	/	・	
(※) 種の特性	全国分布	日本全国の沿岸。				
	仙台市内の分布	仙台港、蒲生干潟など。				
	形態	全長25cm。夏羽は頭部が黒く、目の上から後頭にかけて白い飾り羽がある。冬羽では頭の黒味が淡色になり、頬から喉も白くなる。				
	生息環境	沖合に生息。沿岸、内湾、港などにも入る。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
⑨	平成28年度の春季（5月）調査時に生息を確認した。			2	23	
合計					23	

表 8.8-11 (28) 注目すべき種の特性及び確認状況（ミサゴ）

種名		ミサゴ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	NT			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
1,4	・	・	・	C	C	○
(※) 種の特性	全国分布	北海道～沖縄。				
	仙台市内の分布	蒲生、広瀬川、大沼、三共堤、七北田川、名取川など。				
	形態	全長雄55cm、雌65cm。翼が細長く、尾が短い。頭部が白っぽく、過眼線から後ろ襟にかけてと、背、翼上面は黒褐色。下面と下雨覆は白く、胸に褐色の帯があるがほとんど無い個体もあり、この帯は雄が細く、雌が太い傾向がある。幼鳥は上面の各羽に白い羽縁がある。				
	生息環境	海岸や湖沼、大河川などの水辺に生息。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-	
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-	
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-	
④	平成23年度の夏季（6～8月）及び秋季（9～11月）調査時に生息を確認した。			6	7	
⑤	平成24年度の夏季（6～8月）及び秋季（11月）、冬季（1月）調査時に生息を確認した。			-	11	
⑥	平成25年度の夏季（7～8月）及び秋季（9～11月）及び冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			25	30	
⑦	平成26年度の夏季（6～8月）及び秋季（9～11月）及び冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			41	42	
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			14	18	
⑨	平成28年度の春季（5月）及び夏季（6～8月）、秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			28	29	
合計					137	

表 8.8-11 (29) 注目すべき種の特性及び確認状況（ハイタカ）

種名		ハイタカ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		-	
	環境省RL	NT			宮城県RDB		NT	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
1,4	C	C	C	C	C			
種の特性 (※)	全国分布	日本全国。						
	仙台市内の分布	太白山周辺、泉区寺岡、丸田沢、二口、朴沢、芋沢、蒲生、井土浦など。						
	形態	全長は雄が約32cm、雌が39cm。頭部から背面が暗青灰色。腹部は白く、胸から腹には細かい横斑がある。頬の暗色部と淡色部の境界はやや不明瞭。雄は眉斑が無いかあっても細い。頬から胸に橙褐色の横斑が密にある。雌は眉斑が細いものから太く明瞭なものまで個体差が大きい。幼鳥は上面の褐色味が強く、胸には錆色の太い横斑がある。初列風切羽の指状羽は6枚。						
	生息環境	平地から亜高山帯の林に生息。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
⑦	平成26年度の秋季（11月）調査時に生息を確認した。				1	1		
合計						1		

表 8.8-11 (30) 注目すべき種の特性及び確認状況（オオタカ）

種名		オオタカ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		-	
	環境省RL	NT			宮城県RDB		NT	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
1,4	C	C	B	B	C	○		
種の特性 (※)	全国分布	日本全国。						
	仙台市内の分布	青葉山、七北田川、蒲生、名取川、井土浦、広瀬川、大沼、南長沼、二口峡、ネッタ峠、定義、サイカチ沼、荒巻、岩切、台原、福岡など。						
	形態	全長雄50cm、雌58cm。成鳥雄は上面が暗青灰色で白い眉斑がある。下面は白く、胸や腹に細かい横斑がある。雌は雄とほぼ同色だがより褐色みが強い。若鳥は背面が赤味のある褐色、下面は淡い褐色で黒褐色の縦斑があり、顔は細かい斑が集まった不明瞭な模様をしている。						
	生息環境	平地から山地の林、河川、農耕地、湖沼などに生息。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
③	平成27年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。				-	-		
④	平成23年度の夏季（6月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。				2	2		
⑤	平成24年度の夏季（6月）及び秋季（11月）、冬季（12月）調査時に生息を確認した。				-	3		
⑥	平成25年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。				1	1		
⑧	平成27年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。平成27年度の冬季（1月）調査時に生息を確認した。				1	1		
⑨	平成28年度の秋季（9～10月）調査時に生息を確認した。				2	2		
合計						9		

表 8.8-11(31) 注目すべき種の特性及び確認状況（ノスリ）

種名		ノスリ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	+	C	C	C	・	○	
種の特 性 (※)	全国分布	日本全国。					
	仙台市内の分布	青葉山、県民の森、十里平、広瀬川、井土浦、蒲生、名取川など。					
	形態	全長雄52cm、雌56cm。模様や羽色に個体差が大きい。頭部から頸にかけては淡褐色あるいは暗褐色などで、暗色の縦斑がある。上面は茶褐色や暗褐色などで、淡色の羽縁がある。胸から腹上部にかけては汚白色で褐色の縦斑があり、下腹部は茶褐色や暗褐色。嘴は黒く蠟膜は淡い黄色。脚は黄色い。成鳥では虹彩が暗色で、若鳥では淡黄色。					
	生息環境	平地から山地の林や草原、農耕地、牧場、河原などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
②	平成26年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑤	平成24年度の冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			-	4		
⑥	平成25年度の夏季（8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			1	1		
⑦	平成26年度の秋季（10月）及び冬季（1月）調査時に生息を確認した。			2	2		
⑧	平成27年度の秋季（10月）及び冬季（12月）調査時に生息を確認した。			2	2		
⑨	平成28年度の夏季（8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			8	8		
合計					17		

表 8.8-11(32) 注目すべき種の特性及び確認状況（コミミズク）

種名		コミミズク					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	要	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	1	・	B	A	B	○	
種の特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	笹川、東部水田地帯、田子、大沼、蒲生など。					
	形態	全長38cm。羽色にはかなり個体変異があり、頭部から上面は褐色、淡い橙褐色、白色の複雑な模様。					
	生息環境	平地から山地の草原、農耕地、川原、埋立地などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
⑨	平成28年度の冬季（1月）調査時に生息を確認した。			1	1		
合計					1		

表 8.8-11 (33) 注目すべき種の特性及び確認状況（カワセミ）

種名		カワセミ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	1,4	.	C	C	C	○
種の特性 (※)	全国分布	日本全国。				
	仙台市内の分布	広瀬川、名取川、策川、二口峡谷、月山池周辺、台原、七北田川、蒲生、南長沼、長沼、将監沼、大倉川、青下ダム、小松島新堤沼、梅田川、与兵衛沼、鶴ヶ谷、南蒲生など。				
	形態	全長17cm。成鳥の翼は黒っぽく、薄い青色の斑があり、光の具合で緑色や青色にも見える。背から上尾筒にかけては光沢のある青色。耳羽、腹、下雨獲は赤橙色、耳羽後方と喉は白い。				
	生息環境	海岸から低山の河川、湖沼、池などで生息。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
②	平成26年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-	
③	平成27年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-	
④	平成23年度の夏季（6～8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			4	5	
⑤	平成24年度の冬季（2月）調査時に生息を確認した。			-	1	
⑥	平成25年度の夏季（7月）及び秋季（9～11月）調査時に生息を確認した。			6	6	
⑦	平成26年度の夏季（6～8月）調査時に生息を確認した。			6	7	
⑧	平成27年度の秋季（9～10月）調査時に生息を確認した。			3	3	
⑨	平成28年度の夏季（7月）及び秋季（9～11月）調査時に生息を確認した。			4	4	
合計					26	

表 8.8-11 (34) 注目すべき種の特性及び確認状況（アカゲラ）

種名		アカゲラ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	+	C	B	C	C	
種の特性 (※)	全国分布	北海道～本州。				
	仙台市内の分布	二口、丸田沢、朴沢、作並、大倉、旗立、芋沢、青葉山、鉤取治山の森、広瀬川下流など。				
	形態	全長24cm。成鳥雄は頭と顎線が黒く、後頭は赤い。上面も黒く、肩羽と雨覆に白い斑がある。喉から下面は汚白色で、下尾筒は赤い。成鳥雌には後頭の赤色が無い。				
	生息環境	平地から山地の林に生息。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
②	平成26年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-	
⑨	平成28年度の秋季（9～10月）調査時に生息を確認した。			3	3	
合計					3	

表 8.8-11(35) 注目すべき種の特性及び確認状況（アオゲラ）

種名		アオゲラ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	+	C	B	C	C	○	
種の特 性 (※)	全国分布	本州～屋久島。					
	仙台市内の分布	二口、鉤取治山の森、青葉山公園、丸田沢、朴沢、大倉、青下、旗立、芋沢など。					
	形態	全長29cm。成鳥雄は額から後頭にかけてと顎線の一部が赤い。顔と頸は灰色、背と肩羽は灰緑色、上尾筒には黄色味がある。喉は白く、体下面は汚白色で、脇と下腹部には黒褐色の横斑がある。成鳥雌は後頭と顎線の一部が赤い。					
	生息環境	平地から山地の広葉樹林や混交林に生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
②	平成26年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-		
合計					-		

表 8.8-11(36) 注目すべき種の特性及び確認状況（チョウゲンボウ）

種名		チョウゲンボウ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	1,4	C	B	C	B		
種の特 性 (※)	全国分布	日本各地。					
	仙台市内の分布	東部平野の建造物、朴沢、芋沢など。					
	形態	全長35cm。成鳥雄は頭と尾羽が青灰色。上面は茶褐色で黒い斑があり、体下面は淡黄褐色で黒褐色の縦斑がある。成鳥雌は上面が淡い茶褐色で、黒褐色の斑がある。					
	生息環境	平地から高山の草地、農耕地、川原、埋立地などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
②	平成26年度の夏季（7月）調査時に生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
④	平成23年度の夏季（6～7月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			3	3		
⑤	平成24年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。			-	1		
⑥	平成25年度の夏季（7月）及び秋季（9～10月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			6	6		
⑦	平成26年度の夏季（6,8月）及び秋季（11月）調査時に生息を確認した。			3	4		
⑧	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。			2	2		
⑨	平成28年度の夏季（8月）及び秋季（10～11月）調査時に生息を確認した。			3	5		
合計					21		

表 8.8-11(37) 注目すべき種の特性及び確認状況（ハヤブサ）

種名		ハヤブサ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	国内	
	環境省RL	VU			宮城県RDB	NT	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
1,4	C	B	B	B	B		
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	青葉山、経ヶ峰、四郎丸、井土浦、蒲生、大沼、仙台港、広瀬川、三神峯、荒井、台原、大年寺山、小鶴、南蒲生など。					
	形態	全長は雄が約42cm、雌が約49cm。飛翔中の翼の先はタカ科のように指状に広がらず、尖って見える。成鳥は頭からの上面が暗青灰色で、頬に髭状の黒い斑がある。胸から腹にかけては白く、黒く細かい横斑がある。幼鳥の上面は淡黒褐色で、羽縁に淡色斑がある。下面はクリーム色で、褐色の太めの縦斑がある。					
	生息環境	平地から山地の河川、海岸、湖沼、農耕地などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に開放水域で生息を確認した。			-	-		
④	平成23年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			2	2		
⑥	平成25年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			1	1		
⑦	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（11月）調査時に生息を確認した。			2	2		
⑨	平成28年度の夏季（6～8月）及び冬季（1月）調査時に生息を確認した。			7	7		
合計					12		

表 8.8-11(38) 注目すべき種の特性及び確認状況（サンショウクイ）

種名		サンショウクイ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	VU			宮城県RDB	VU	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	C	C	B	C	C		
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州～九州。					
	仙台市内の分布	二口、茂庭、釣取治山の森、八木山、青葉山公園、鶴ヶ谷、井土浦、丸田沢、朴沢、芋沢など。					
	形態	全長20cm。雄成鳥は額と喉からの体下面が白い。頭頂から後頸、過眼線は黒くつながっている。背と雨覆いは灰黒色。成鳥雌は、雄より額の白い部分が多少狭い。					
	生息環境	平地から低山の林などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
⑨	平成28年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			1	1		
合計					1		

表 8.8-11 (39) 注目すべき種の特性及び確認状況（モズ）

種 名		モズ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
1	+	C	B	C	C	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	日本全国。					
	仙台市内の分布	二口、丸田沢、旗立、芋沢、広瀬川、名取川、青葉山公園など。					
	形 態	全長20cm。成鳥雄は過眼線が黒く、初列風切の基部には白斑がある。成鳥雌は過眼線が褐色で、初列風切の白斑はない。					
	生息環境	平地から山地の開けた環境に生息。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に非耕作農地及び被災樹林で生息を確認した。			-	-		
②	平成26年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
④	平成23年度の秋季（10～11月）調査時に生息を確認した。			2	2		
⑤	平成24年度の秋季（11月）及び冬季（1月）調査時に生息を確認した。			-	5		
⑥	平成25年度の夏季（6月）及び秋季（10月）、冬季（1月）調査時に生息を確認した。			5	5		
⑦	平成26年度の夏季（7～8月）及び秋季（9～11月）及び冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			14	14		
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）及び秋季（9～10月）調査時に生息を確認した。			9	9		
⑨	平成28年度の春季（5月）及び夏季（6～8月）、秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			32	32		
合 計					67		

表 8.8-11(40) 注目すべき種の特性及び確認状況（ヒバリ）

種 名		ヒバリ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
	・	C	B	C	C	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	市内全域で背丈の低い休耕田等の草地、丸田沢、芋沢など。					
	形 態	全長17cm。頭からの尾羽までの上面は淡い黄褐色で、黒褐色の斑がある。眉斑は白っぽく、耳羽は赤褐色味がある。体下面は白っぽく、胸には淡い黒褐色の縦斑、脇腹には褐色の縦斑がある。					
	生息環境	農耕地、草地、川原などに生息。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に住宅跡で生息を確認した。			-	-		
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
④	平成23年度の夏季（6～8月）及び秋季（9～11月）調査時に生息を確認した。			7	18		
⑤	平成24年度の春季（3、5月）及び夏季（6～7月）、秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	56		
⑥	平成25年度の夏季（7～8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			23	46		
⑦	平成26年度の夏季（6～7月）及び秋季（10～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			18	28		
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）及び秋季（9～10月）、冬季（12月）調査時に生息を確認した。			11	19		
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び夏季（6～7月）、秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			29	40		
合 計					207		

表 8.8-11(41) 注目すべき種の特性及び確認状況（ツバメ）

種名		ツバメ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	・	C	C	C	・	○
種 の 特 性 (※)	全国分布	日本全国。				
	仙台市内の分布	市街地中心部を除いた全域。				
	形態	全長17cm。額と喉は赤茶色。頭頂からの上面は光沢のある紺色で、風切と尾羽は黒い。胸から下尾筒までの体下面は白い。				
	生息環境	市街地や田畑、海岸、河川など様々な環境に生息。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に非耕作農地で生息を確認した。			-	-	
②	平成26年度の夏季（7月）調査時に生息を確認した。			-	-	
③	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。			-	-	
④	平成23年度の夏季（6～8月）調査時に生息を確認した。			3	5	
⑤	平成24年度の春季（5月）及び夏季（6～8月）、秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	89	
⑥	平成25年度の夏季（7～8月）調査時に生息を確認した。			7	9	
⑦	平成26年度の夏季（7～8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			12	45	
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			13	14	
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び夏季（6～7月）、秋季（9月）調査時に生息を確認した。			14	49	
合計					211	

表 8.8-11(42) 注目すべき種の特性及び確認状況（ウグイス）

種名		ウグイス				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	1,4	+	+	C	C	○
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。				
	仙台市内の分布	太白山周辺、青葉山公園、広瀬川、名取川、七北田川、二口、丸田沢、朴沢、旗立、芋沢、井土浦、蒲生など。				
	形態	全長14～16cm。頭から上面は地味な灰色味のある黄緑色で、汚白色の眉斑がある。脇腹は淡褐色。				
	生息環境	平地から山地のササ類や低木林、公園や高原などに生息。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に被災樹林で生息を確認した。			-	-	
③	平成27年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-	
⑦	平成26年度の冬季（12月）調査時に生息を確認した。			1	1	
⑧	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。			1	1	
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び夏季（6～7月）、秋季（10～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			21	21	
合計					23	

表 8.8-11 (43) 注目すべき種の特性及び確認状況（オオセッカ）

種名		オオセッカ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	国内		
	環境省RL	EN			宮城県RDB	VU		
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
1,3,4	.	.	.	.	.			
(※) 種の特性	全国分布	東北、関東などに局地的。						
	仙台市内の分布	蒲生海岸、井土浦。						
	形態	全長13cm。頭からの上面は淡い茶色で、頭頂に細かい黒褐色の斑がある。顔は淡色で、眉斑と体下面は白く、脇腹と下尾筒は淡褐色。						
	生息環境	平地のアシ原や草原などに生息。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
③	平成27年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。				-	-		
合計						-		

表 8.8-11 (44) 注目すべき種の特性及び確認状況（オオヨシキリ）

種名		オオヨシキリ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-		
	環境省RL	-			宮城県RDB	-		
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
1,4	.	C	B	C	C	○		
(※) 種の特性	全国分布	北海道～九州。						
	仙台市内の分布	大倉ダム、川内、米ヶ袋、鶴ヶ谷、田子、将監、名取川、井土浦、霞目、南長沼、大沼、蒲生など。						
	形態	全長18cm。成鳥は頭からの上面が灰褐色で、額から頭頂や翼、尾はやや暗色。細い汚白色の眉斑がある。喉からの体下面は白っぽい、胸から脇腹にかけては淡褐色味がある。						
	生息環境	平地から山地の主にアシ原に生息。灌木の点在する草地にも入る。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に開放水域、湿地で生息を確認した。				-	-		
②	平成26年度の夏季（7月）調査時に生息を確認した。				-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。				-	-		
④	平成23年度の夏季（6～7月）調査時に生息を確認した。				2	2		
⑤	平成24年度の春季（5月）及び夏季（6～8月）、秋季（10月）調査時に生息を確認した。				-	65		
⑥	平成25年度の夏季（7～8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。				7	8		
⑦	平成26年度の夏季（6～8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。				40	40		
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）調査時に生息を確認した。				47	47		
⑨	平成28年度の春季（5月）及び夏季（6～7月）調査時に生息を確認した。				43	53		
合計						215		

表 8.8-11 (45) 注目すべき種の特性及び確認状況（コヨシキリ）

種名		コヨシキリ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
1,4	・	C	A	C	C	○
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。				
	仙台市内の分布	青葉山、野牛、福田町、井土浦、広瀬川、南長沼、蒲生など。				
	形態	全長14cm。成鳥は頭からの上面が灰褐色で、頭側線と過眼線は黒褐色。眉斑と頬は汚白色で、喉からの体下面は白い。胸から脇腹は淡褐色。				
	生息環境	平地から山地の草原、湿原、川原などに生息。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
②	平成26年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-	
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-	
⑤	平成24年度の夏季（6月）調査時に生息を確認した。			-	1	
⑥	平成25年度の夏季（7月）調査時に生息を確認した。			7	7	
⑦	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			6	6	
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）調査時に生息を確認した。			10	10	
⑨	平成28年度の夏季（6～7月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			16	16	
合計					40	

表 8.8-11 (46) 注目すべき種の特性及び確認状況（セッカ）

種名		セッカ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
1,4	・	C	B	C	C	○
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。				
	仙台市内の分布	丸田沢、広瀬川下流、井土浦、大沼、蒲生、七北田川など。				
	形態	全長13cm。成鳥夏羽は頭からの上面が黄褐色で、黒い縦斑がある。体下面は白っぽく、脇腹は褐色味がある。成鳥冬羽は夏羽に比べて腹に黄色味がある。				
	生息環境	平地の川原、草原、農耕地などに生息。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に開放水域及び湿地で確認した。			-	-	
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-	
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-	
⑥	平成25年度の夏季（8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			7	7	
⑦	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9～10月）調査時に生息を確認した。			8	8	
⑧	平成27年度の夏季（6,8月）調査時に生息を確認した。			2	2	
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び夏季（6～7月）、秋季（9月）、冬季（12月）調査時に生息を確認した。			13	13	
合計					30	

表 8.8-11(47) 注目すべき種の特性及び確認状況（キビタキ）

種 名		キビタキ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
	+	C	B	・	・	○	
種の特 性 (※)	全国分布	北海道～南西諸島。					
	仙台市内の分布	秋保町、二口、丸田沢、朴沢、芋沢、大倉、青下鉤取治山の森、台原森林公園、榴ヶ岡公園、井土浦、蒲生など。					
	形 態	全長14cm。成鳥雄は上面が黒く、眉斑は橙黄色。喉から胸にかけて橙黄色で、腹は黄色い。雌は全体的にオリーブ褐色で、体下面は淡褐色。					
	生息環境	平地から山地の林に生息。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
②	平成26年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-		
合 計					-		

表 8.8-11(48) 注目すべき種の特性及び確認状況（セグロセキレイ）

種 名		セグロセキレイ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
	4	C	C	C	・		
種の特 性 (※)	全国分布	北海道～南西諸島。					
	仙台市内の分布	秋保町、二口、広瀬川、大沼、作並、大倉、台原森林公園、丸田沢、朴沢、旗立、芋沢など。					
	形 態	全長21cm。成鳥は背からの上面や頸、胸などが黒い。額から眉斑と喉、腹からの体下面は白い。雌よりも雄の方が全体に黒色の部分が濃い。					
	生息環境	平地から山地の河川、湖沼、農耕地などに生息。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
③	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑤	平成24年度の冬季（1月）調査時に生息を確認した。			-	1		
⑦	平成26年度の夏季（6～7月）調査時に生息を確認した。			2	3		
⑨	平成28年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。			3	3		
合 計					7		

表 8.8-11 (49) 注目すべき種の特性及び確認状況（ホオジロ）

種名		ホオジロ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	+	+	B	C	C	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	秋保町、二口、広瀬川、太白山自然観察の森、大倉、水の森公園、鶴ヶ谷、梅田川、井土浦、蒲生、水の森公園、丸田沢、朴沢、旗立、芋沢など。					
	形態	全長17cm。成鳥雄は眉斑と頬線、喉が白く、頭側線と過眼線、耳羽、顎線は黒い。上面は茶褐色で、黒い縦斑がある。成鳥雌は雄より淡色で、頭部の黒色部分は茶褐色。					
	生息環境	平地から山地の草原、農耕地、疎林、河原などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に被災樹林で生息を確認した。			-	-		
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
④	平成23年度の秋季（9月）調査時に鳴き声のみ確認した。			-	-		
⑤	平成24年度の春季（4～5月）及び夏季（6～8月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			-	25		
⑥	平成25年度の夏季（7～8月）及び冬季（12～1）調査時に生息を確認した。			3	4		
⑦	平成26年度の夏季（7～8月）及び秋季（11月）、冬季（12月）調査時に生息を確認した。			22	41		
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）及び冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			10	20		
⑨	平成28年度の春季（4月）及び夏季（7月）、秋季（10～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			19	34		
合計					124		

表 8.8-11 (50) 注目すべき種の特性及び確認状況（ホオアカ）

種名		ホオアカ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	B	C	A	C	B	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	泉ヶ岳、七北田ダム、芳の平、水の森公園、丸田沢、芋沢、井土浦、蒲生など。					
	形態	全長16cm。成長雄は頭部が灰色で、黒褐色の縦斑が密にある。頬は茶色で、後方に小さな白斑がある。上面は薄茶色。喉から胸にかけては白く、胸にT字形の黒い模様と茶色い横帯がある。成鳥雌は頭部の灰色がやや薄い。					
	生息環境	平地から山地の草原、川原、農耕地などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に湿地で生息を確認した。			-	-		
④	平成23年度の夏季（7月）調査時に生息を確認した。			1	1		
⑥	平成25年度の夏季（7～8月）調査時に生息を確認した。			3	3		
⑦	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9～10月）調査時に生息を確認した。			9	10		
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）調査時に生息を確認した。			3	3		
⑨	平成28年度の夏季（6～7月）調査時に生息を確認した。			3	3		
合計					20		

表 8.8-11 (51) 注目すべき種の特性及び確認状況 (アオジ)

種名		アオジ					
注目すべき種の選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上重要種	減少種					環境指標種
		山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	
	C	C	C	C	C	○	
種の特異性(※)	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	丸田沢、二口、朴沢、旗立、芋沢、広瀬川、名取川など。					
	形態	全長16cm。成鳥雄の夏羽は頭から背が灰黄緑色。顔は目先から嘴基部が黒い。喉から腹部は全体的に黄色く、脇腹に黒褐色の縦斑がある。成鳥雌は、全体的に雄よりも色が淡く、目先は黒くなく、頭部全体に褐色みがあり、淡色の肩斑や顎線がある。					
	生息環境	平地から山地の、疎林や低木の林、草原などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
②	平成26年度の夏季(7月)調査時に生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の秋季(10月)調査時に生息を確認した。			-	-		
④	平成23年度の夏季(6～7月)調査時に生息を確認した。			2	2		
⑤	平成24年度の春季(3,5月)及び夏季(6～7月)冬季(2月)調査時に生息を確認した。			-	36		
⑥	平成25年度の夏季(7月)調査時に生息を確認した。			3	3		
⑦	平成26年度の夏季(7月)及び秋季(10月)、冬季(12～1月)調査時に生息を確認した。			12	16		
⑧	平成27年度の夏季(6～7月)及び秋季(10月)調査時に生息を確認した。			4	4		
⑨	平成28年度の春季(4～5月)及び夏季(6～7月)、秋季(10～11月)、冬季(12～1月)調査時に生息を確認した。			25	30		
合計					91		

注：1. 「仙台市内の分布」は「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年 仙台市)から、「全国分布」、「形態」、「生息環境」は「新版 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥」(2014年 山と溪谷社)から引用した。  
2. 注目すべき種の選定基準の区分は、表8.8-5・6のとおりであり、「番号」は表8.8-3の資料番号に対応する。

ウ. 爬虫類

(7) 確認種

既存資料調査の結果は表8.8-12のとおりであり、1目1科1種が確認された。

表 8.8-12 爬虫類の確認種 (既存資料調査結果)

No.	目名	科名	種名	資料番号
				②
1	カメ	ヌマガメ	ミシシippアカミミガメ	○
-	1目	1科	1種	1種

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」(平成30年、国土交通省)に準拠した。  
2. 「資料番号」は、表8.8-3の資料番号に対応する。

(イ) 注目すべき種

確認された爬虫類のうち、表8.8-5・6に示した選定基準に該当する注目すべき種はなかった。